

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループ2)

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	平成29年8月7日	開設年月日	平成15年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 29 年 9 月 13日	評価結果決定日	平成 29 年 9 月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安全で安心した生活が続けていけるように、その人らしさを大切にしたい支援を目指し、理念を掲げ、職員会議にて理念の共有を行いながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年春恒例の子供神輿の来所や、施設の夏祭りでは、地域の子供達が参加してくれており利用者様との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所された地域の方々へ認知症の説明をしながら、利用者様と交流していただき、認知症の理解を少しでも広めていけるよう活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的に開催し、利用者様、地域住民、町内会長、包括支援センター、町役場等、皆さんの参加をいただき、お互いに情報交換やアドバイスをいただいている。議事録は全職員に伝達している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議への出席、役場の窓口には随時伺い、利用者様の状況報告を行ったり、情報の共有化に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけたまま、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	介護理念の中に掲げた「拘束のない介護」を目指し、職員が外部研修や施設内研修への参加により、学習、伝達、共有する事で拘束しないケアを実践している。徘徊による外出、転倒防止の為、玄関へ風鈴、ベッド脇に鈴をつけさせていただき、工夫しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム長を講師としての施設内研修や、外部研修へ参加し全職員へ伝達しながら、どのような時に虐待が起こる可能性があるのかを全職員で学んだ。虐待を起こさないような職場の環境作りの為に、職員同士で些細な事でも話し合いを持ち、どんな虐待も起こさない取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な利用者様には、積極的に関係各所と連携を図り活用している。毎月訪問される支援員と情報共有を行い関係も良好である。権利擁護のパンフレットはいつでも閲覧できるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の御家族様に対し、事前の施設見学、契約書、重要事項説明書を読み合わせしながら丁寧に説明している。転倒や予期せぬリスクについても説明し、御理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者の明記や御意見箱の設置により、御意見を頂くようにしている。運営推進会議等でのアドバイスや、定期的に利用者様へ要望等伺いながら、都度対応する事としている。要望や意見を話しやすい雰囲気、環境作りを心掛けている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見発表の他に、随時気が付いた事を申し送りノートを活用しながら、意見の提案、検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤労年数や資格の有無だけの評価ではなく、仕事に対する姿勢や、能力向上への意欲を昇給や賞与に反映させている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修会へ参加する機会を設けて頂き、受講者は職員会議にて発表し個々ではなく、全職員のスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会への加入により、研修会等を通し他施設との情報交換や意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様、御家族様が不安にならない様、ゆっくりと施設の特徴を説明し、不安や要望をしっかりと受け止めるよう対応している。事前の見学でも、普段通りの様子を見て頂き、雰囲気を感じて頂ければと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の心配事や要望を伺い、施設で対応可能な部分を御理解頂きながら、御家族様が不安なく生活できるよう支援させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様、他サービス事業所、関係者同士が話し合い、御本人が必要な支援を見極め、サービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事をして頂き、共に生活していく中で、職員の知らない事を多く学ばせて頂きながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の御家族様へは、電話にて近況報告や利用者様と直接話して頂き、随時、面会で来所できる御家族様には、ゆっくりと会話ができる環境を整え、家族の絆を大切にさせて頂いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人が何時でも面会に来所できる環境を整え、面会に来所された際は、また何時でも面会に来てもらえるようお願いしている。又、地域の床屋さんの出張利用等で、古くからの顔なじみの関係が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせ隣同士の席を配慮し、家族の様な居心地の良い環境を心掛けている。利用者様同士で助け合う姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で、やむなく退所となるケースでも、御家族、医療関係者と共に相談に応じサービス利用に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で、本人様の要望や意向を見極めサービスプランへ反映できるよう努めている。御家族様へも、プランを通して伝え、協力して頂ける所はお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に、御本人様、御家族様より、これまでの生活の様子を伺い、職員間でも情報を共有し、また、面会の友人様より、得意な事や、好きな事等をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事や水分量、排泄状況の記録の他に、変化の見られた時は申し送りノートを活用し、職員間での共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成は、担当職員を中心に夜勤職員以外、全スタッフ参加にて、利用者様の希望、御家族様の意向、日々の生活の中での課題をプラン作成の参考にしている。6ヶ月毎に、見直しを実施、達成、変更、継続の評価をする。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌、個別の経過記録簿を活用し、記録している。特別な変化や受診結果、薬の変更等情報は申し送りノートにも記入し職員間の情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の慣れ親しんだ、理容院へ出かけたり、主張理容を依頼したりして継続してもらっている。三味線や踊り、唄等のボランティアを受け入れ、利用者様の楽しみの一つとなっている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族様の希望で、かかりつけ医を決めて頂き、御家族様が付き添い可能な時は、情報提供の手紙を持参して頂き、主治医との情報共有に努めている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護職員として勤務していることから、利用者様の急変には、直ぐに対応できる環境である。迅速な連絡、処置、受診が出来るよう指示をもらっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居中の情報提供を行い、状況を確認して頂いている。御家族様、医療機関と連携し、入院中の状況を確認しながら、退院にむけての相談を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期での利用者様、御家族様の意向をお聞きし、当施設で対応できる範囲の内容を十分に説明し、御理解頂いている。尚、入院や他施設への入所申請支援を行っている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応については、マニュアルを基に全職員を対象に研修会を行っている。また、転倒等の事故発生時は、当日カンファレンスを行い、再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で、避難誘導、初期消火、通報、消火器の使用実践等を利用者様にも参加して頂き実践している。職員会議で問題点等を話し合い、防災意識を高めている。近隣住民との協力体制も出来ている。			
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護条例や守秘義務の重要性について、全職員を対象に研修会を行っている。一人ひとりの人格を尊重した声かけが出来ているか、職員同士確認しながら心掛けている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションは取れており、希望も不満も自由に話せる環境、雰囲気になっている。利用者様への支援の前は必ず確認の声かけを行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内での大まかな生活リズムは決ってはいるが、起床時間や就寝時間等は個人差があり、基本的に利用者様のペースで生活されている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを利用者様と選んだり、利用者様の希望で慣れ親しんだ美容院へ出かけたり出張美容院等、身だしなみやおしゃれを楽しまれている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合わせメニューを工夫したり、利用者様に合わせた食事形態で提供している。調理中の美味しそうな匂いを感じながら、一緒に揃って楽しく食事をして頂いている。			
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記録し、また、受診時の血液検査での結果を参考にしながら、一人ひとり合った食事形態を工夫し提供している。また、水分摂取に関しても一人ひとり工夫しながら摂取して頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回の口腔ケアは、職員付き添いにて、声かけや歯磨き介助にて支援し清潔保持に努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを把握し、定期、随時でのトイレ誘導で排泄介助を行っている。夜間はベッドの脇にポータブルトイレを本人様確認のもと設置させて頂き、なるべく、おむつ使用は軽減できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認をしっかりと行い、食物繊維の多い食材の提供や水分が不足しないように、また、運動やマッサージを活用しながら便秘の軽減に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調や、希望により入浴日や時間を変更している。入浴時は職員との大切なコミュニケーションの場となり、笑い声や唄声が聞こえてきたりと楽しみの時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様1人ひとりの希望を聴きながら、お昼寝タイム時、居室で休まれたり、リビングでうたた寝されたりして休まれている。夜間眠付かれない方に対しては、夜勤者と会話しながらひと時を過ごして頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様1人ひとりの薬剤情報に必ず目を通し、また、薬の変更時等、申し送りノートを活用し、全職員が薬の情報を共有できるようにしている。服薬時には、声を掛け合い、誤薬の防止に努めている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員とコミュニケーションを取りながら、軽体操やレクリエーションを楽しみながら参加して頂いたり、洗濯物たたみ、皿拭き、片づけ等出来る範囲でお手伝い頂き、都度、お礼を述べて生活の張り合いの一つとさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、施設の周辺散歩を行ったり、花見やドライブを楽しまれている。又、家族様の協力で自宅への外出も支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できて所持金ある方は少なく、福祉サービス利用者様等は事務者管理で、小遣い帳記入し確認して頂いている。職員付き添いで、買い物に出かけた場合には、立て替え払いであっても、本人が払えるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、家族様や友人への電話代行支援を行ったり、手紙の宛名書き、投函支援も行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はリビングを中心に配置されており、常に開放的である。都度、利用者様の意見を取り入れながら、明るさや温度を調節したり、季節を感じられるような飾り付けや行事の写真を飾り、振り返りながら楽しく、居心地よく過ごせる様、工夫している。トイレや居室に表札を付け、わかりやすいよう配慮している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況に合わせ、気の合った方同士で話はずむようなソファや車椅子の配置にしている。食堂のテーブル席も楽しく食事できるように、介助が必要な方とのバランスを工夫しながら、着席して頂き心地よい空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望を取り入れ、家具等の配置を行っている。また、担当職員とコミュニケーションをとりながら、居室の飾り付けを行い、居心地の良い空間になるよう心掛けている。馴染みの家具や、御主人様のお位牌を安置され、落ち着かれている利用者様もおられる。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内各所には手すりが個々の能力合わせて安全に移動、また介助出来るよう配置されている。自室の入口に表札とは別に、好みのマスコット等を吊り下げ迷わないように配慮している。			